前橋文化推進会議

第６回（最終回）アーツなカフェ「カウントダウンアーツ！」
2013 年 10 月 19 日（土）/ 元気 21 中央公民館 55 学習室

市民 + 前橋文化推進会議 + アーツ前橋

◇ HP　http://maebun.web.fc2.com/　◇ facebook　http://www.facebook.com/maebunsui　◇ twitter　http://twitter.com/MaeBunsui

前橋文化推進会議

第６回（最終回）アーツなカフェ「カウントダウンアーツ！」
2013 年 10 月 19 日（土）/ 元気 21 中央公民館 55 学習室

◇ HP　http://maebun.web.fc2.com/　◇ facebook　http://www.facebook.com/maebunsui　◇ twitter　http://twitter.com/MaeBunsui

■ はじめに

◆ 前橋文化推進会議は、『アーツ前橋』を中心に、「市民の手によって／新たな文化を生み出し・支え、維持し／発展させ、発信していくこと」を準備するための市民会議です。

◆ アーツなカフェは、前橋文化推進会議がご用意する、市民と市民の対話の場、市民と行政の対話の場、市民と文化・芸術の対話の場です。

◆ 第６回（最終回）
アーツなカフェ「カウントダウンアーツ！―アーツ前橋の楽しみ方―」
主　　催：前橋文化推進会議・アーツ前橋
日　　時：2013 年 10 月 19 日（土）午後 1 時 30 分～
場　　所：元気 21 中央公民館 55 学習室
参加人数：約 30 名

◆ 配布資料：
・カウントダウンアーツ！メニュー（カフェ進行次第）
・アーツなカフェ及び前橋文化推進会議に関するアンケート

◆ 過去のアーツなカフェ

第１回：「アーツなカフェって、なんなん？」
日　　時：2012 年 10 月 21 日（日）午後 1 時～
場　　所：元気 21 中央公民館 55 学習室
参加人数：約 50 名

第２回：「今から考えなくっちゃいけないこと」
日　　時：2012 年 12 月 15 日（土）午後 3 時 30 分～
場　　所：元気 21 中央公民館 42 アトリエ
参加人数：約 40 名

第３回：「アーツなトーク　市長とアーツをアツく語る。」
日　　時：2013 年 2 月 25 日（月）午後 7 時～
場　　所：元気 21 中央公民館 51/52 学習室
参加人数：約 120 名

第４回：「クリエーターと話すカフェ」
日　　時：2013 年 5 月 18 日（土）午後 1 時 30 分～
場　　所：元気 21 中央公民館 55 学習室
参加人数：約 60 名

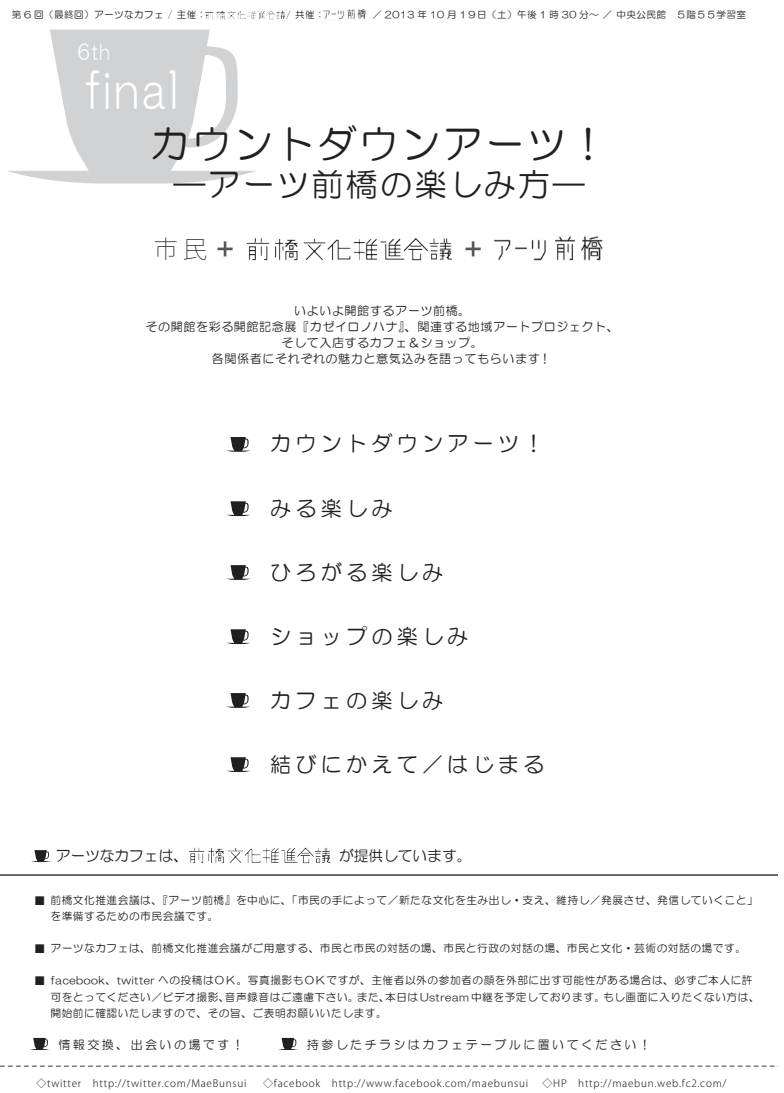
第５回：「アーツ前橋の話をしましょう」
日　　時：2013 年 7 月 19 日（金）午後 7 時～
場　　所：アーツ前橋 1 階 カフェスペース
参加人数：約 40 名

前橋文化推進会議

第６回（最終回）アーツなカフェ「カウントダウンアーツ！」
2013 年 10 月 19 日（土）/ 元気 21 中央公民館 55 学習室

◇ HP　http://maebun.web.fc2.com/　◇ facebook　http://www.facebook.com/maebunsui　◇ twitter　http://twitter.com/MaeBunsui

＊第６回アーツなカフェ　チラシ



＊第６回アーツなカフェメニュー（次第）

第６回（最終回）アーツなカフェ「カウントダウンアーツ！」
2013 年 10 月 19 日（土）/ 元気 21 中央公民館 55 学習室

登壇者　住友　文彦（アーツ前橋館長）
　　辻　　瑞生（アーツ前橋学芸員）
　　山本　　誠（ロブソンコーヒー）
　　廣田　雅子（アートショップＡＯ前橋店）
　　喜多村徹雄（前橋文化推進会議 議長）
司会　　中島美江子（前橋文化推進会議 委員）

○あいさつ

中島：昨年から開催してきた前橋文化推進会議、アーツ前橋と共催でほぼ隔月で開催してきたアーツなカフェも今回で最終回となります。開館を一週間に控え、住友館長、辻学芸員、カフェ・ショップの担当者の方を招いて、アーツ前橋の楽しみ方をテーマに話を聞いていこうと思います。

始めは、住友館長と喜多村議長のお二人にアーツ前橋が開館するにあたっての想いやこれまでの軌跡について話をしていただこうと思います。

＊カフェの様子／元気 21 中央公民館 55 学習室

○カウントダウンアーツ！

喜多村議長（以下、喜多村）：アーツ前橋のグランドオープンが来週に迫っていますね。現場はきりきり舞いの状態ですか。

住友館長（以下、住友）：きりきり舞いどころか振り切っている状態です（笑）。展覧会の準備をするときに二つの大きな山があって、会場の準備と図録の準備です。

今回の展覧会のひとつの特徴は、前橋市がこれまで集めてきた収蔵作品と新作の作品があることです。昨日までに会場の施工が終り、今日から作品の設置が始まったところですが、新作については、作家が現場に来ると想像と違うものになっていたりすることがあるので、会場設営では予期しなかったことが、今、次々と現場で起こっています（笑）。二分冊の図録を予定しています。一冊目はイントロダクションのような形式、二冊目は作品解説の載ったカタログになる予定です。

プレイベントではまっさらな展示室を見ていただいたが、今回は 50 作家の作品（館外のプロジェクト参加作家を含む）を展示するので、展示室はまったく違った見え方になります。作品が並んだ時の空間の感想もみなさんから是非聞いてみたいと思っています。

■活動コセンプト

喜多村：アーツ前橋のグランドオープンに際して、今どういう想いでいますか。

住友：３年前からプレイベントをやってきているのでいわゆるソフトの部分の活動はスタートさせているとも言えます。それでも、グランドオープンしたら、もともと美術に関心を持っている人、そうでない人、県外の人も含めた幅広い人たちが来るようになるのは大きな変化です。いろいろなことが試されていく、という緊張感はあります。

喜多村：前橋文化推進会議としても、関心のある人、ない人に対してどのようにすればアーツ前橋の魅力を発信・広報していけるのかを考えてきましたから、似たような緊張感を持っています。

アーツ前橋の一階に掲げられた３つの活動コンセプトには、関心のある人やない人に向けた想いが詰まっていると思いますが、改めて、紹介してください。

住友：運営検討委員会や前橋文化推進会議などで多くの人たちの声を聴く機会を重ねてきました。そこで何が話されてきたかを明確に伝えなければいけないし、これからの事業に反映させていくという想いが、活動コンセプトを掲げた背景にはあります。

ただオープンするのではなくて、こういう考えで事業を進めていくということが示せればいいと思い、前橋文化推進会議からの協力も得て３つのコンセプトを決めました。

１　創造的であること　creative

当たり前のように聞こえるかも知れません。でも、新しい創造を後押しするにはリスクもあることなのです。改めて、文化をつくっていく場所だということを言いたかった。

２　共有すること　share

作品を次の世代につないでいくことや、いろいろな美術や文化の情報に触れることができる施設にするという思いが込められています。

３　対話的であること　dialogues

これがアーツ前橋の活動のうえでの特徴と言えます。70 年代の日本では一部の人が美術を知っているような状況でしたから、より多くの人に美術を紹介する目的でたくさんの美術館が出来ていきました。でも今は、美術に関心を持つ人が多くいる時代です。海外の美術館にも行くし、全国の美術館を飛び回るように見に行っている人もたくさんいます。そのような時代であれば、アーツ前橋の事業は対話的なかたちで行われていくべきだと考えました。

喜多村：この３つのコンセプトを通してアーツ前橋は何を目指していこうとしているのでしょうか。

住友：文化や作品をつくるということは、水や土から花が咲くのと似ています。土の成分があまり純粋になりすぎないように、また養分を吸いやすくなるように混ぜることがアーツ前橋の仕事だと思っています。３つのコンセプトが実を結んで、成果が見えてくるのは５年後、１０年後、そういう意識で取り組んでいます。

■重なっていく想い

喜多村：アーツ前橋と前橋文化推進会議は多くの対話をしてきました。そして、アーツなカフェでも、皆さんとの対話や情報の共有を図って来たつ

もりです。私がアーツなカフェで最も印象残っているのは、小グループに分かれて参加した方とテーブルを囲んでアイデアマップを作った回です。

出されたアイデアには参加された方の「想い」がありました。その想いとアーツ前橋の活動コンセプトに溶け込んでいる「想い」が重なってきていることを、文化推進会議を通して見えてきています。アーツ前橋でも自覚されていると思いますが、それを具体的に挙げてくださいませんか。

住友：その時に出されたアイデアのなかで、「そうだな」と思って、色々と考えてきたことがあります。

・情報発信

SNS に取り組んでいる美術館は多くはないのですが、これは今の時代には必要なことだと思います。プレオープンの展示ではフェイスブックを利用して観た人の色々な感想が見られる取り組みをしました。

SNS は、自分以外の人たちがどんなことを考えているのかが可視化される仕組みなので、対話的というコンセプトと結びつくものです。一方で、行政直営の施設では気軽に発信できないのも実情です。しかし、そこを何とか実現したいと考えているので、とても大事なツールとして開館後も活用していきたいと思っています。例えば、作家が準備している様子をフェイスブックにアップすると「いいね」が増えるんです。普段触れることができない裏側が見えることは大事なことだと思います。

・利用促進

「なにもないギャラリー空間を子どもが走り回れたり、自由に振る舞えたりするようなアート作品をつくってもらいたい。」というアイデアがありました。３月にアーツ前橋の学芸以外の専門家と協働して行った内覧イベント『walk 歩くことからはじまること』では、何も展示されていない地下のギャラリー空間を使って子ども達も参加したイベントを行いました。美術館に行かない理由の多くは、美術館に行ったことがないからなんですが、子どもの時にあそこで走ったという経験を持った子どもが前橋のなかに増えたということはすごく意味があったと思っています。

・「街全体が美術館」

アーツ前橋の事業を街のなかで行う〈地域アートプロジェクト〉という試みを始めている。詳しくは後でお話しすることになると思います。

喜多村：情報を発信していてもまだまだ届いていないところがあります。難しい課題ですが、アーツにはこれからもどんどん情報を発信して、「対話」を深めていってもらいたいです。

■いろいろな感じ方の人の中から価値が生まれる

喜多村：多様なプレイベントを展開されたので、アーツ前橋にはフツーの作品はないのと思っている方もいると思うのです。でも前橋市は多くの収蔵作品があります。それらの作品を見る機会はあるのでしょうか？

住友：前橋市には 20 世紀を通して活動してきた作家が遺してきた作品が、資料含めて 850 点あります。テーマ展という切り口を通して、また、コレクションとそれに関連する作品を混ぜながらどんどん紹介していく予定です。もう一度同時代のなかに置いていくことはやっていかなくてはと思う。

喜多村：歴史の中に埋もれてしまっている作品にしっかりと光を当て、今

を生きる作家たちと対話を行うことで、未来への対話につなげることはとても大切なことだと思います。

喜多村：アーツ前橋は、街なかに立地している特徴を生かして積極的に館外へ出て、たくさんの人と対話をしていますね。何故そのようなことをするのか、もう少し話を聞かせてください。

住友：芸術家の表現活動がそうであるように、アーツ前橋でやっていることも見てくれる人がいないと成立しません。いろいろな感じ方の人の中に作品が置かれていくことが、価値をつくっていくことで大事なことだと思っています。商店街の方々がどう感じるかというところに新しい価値や見方が生まれてくる可能性が必ずあるはずだと思っています。それが、芸術文化が持つ、予期しないものが生まれてくるポイントだと思う。たまたま立地は街なかだけれども、どんなところにあっても色々な方の眼に作品が触れるということに意味があると考えています。

喜多村：アーツ前橋がある千代田町は歓楽街なので、ある種の猥雑さもあるけれど、その中から生まれるモノや出来事に興味があります。色々な価値や思いがうごめいているという点は市民参加とも重なると思います。街や人との対話の中から今までになかった価値が現れていくことは、すごくおもしろいことだと思います。

参加者：SNS やフェイスブックとかは、興味のある人だけにしか届かない。関心のない方たちにどうやってお知らせするのかというところが私の見る限りではできていない。街なかやカフェでチラシが置いてあることはほとんどなくて、最近になってやっと中央通りとかにポスターをみかけたり、パン屋さんでチラシを見たくらい。広報はどういう方法でやっているのかほとんど見えない。世間では（アーツ前橋に）関心があるのだろうか。普通の人たちがどれだけ関心をもってアーツ前橋ができることを知っているのかわからない。

どこにでもポスターを見かけられるようにしてもらえれば、関心のない人たちでも「あっこれは何のポスターかしら」となるのが第一歩だと思う。

○みる楽しみ

中島：展示作業中の開館記念展『カゼイロノハナ』について担当の辻学芸員に聞いていきます。タイトルの『カゼイロノハナ』の由来について教えてください。

辻学芸員（以下、辻）**：**萩原朔太郎は、ちょうど 100 年前の 1913 年に詩壇に登場するのですが、その年に手作りされた『ソライロノハナ』という歌集があります。また、この前橋で、美術に限らず、クリエイティブな活動をした方を紹介したいと考えました。その人々の活動は、生まれた風土と関係があるのではないかと思い、赤城山から吹くからっ風の「カゼ」と朔太郎の詩壇登場 100 年になることに敬意をはらって『カゼイロノハナ』となりました。

登場するのは、詩人の萩原恭次郎、作曲家で数々の童謡を手掛けた井上

武士、苔類や菌類の研究家・角田金五郎、日本の近代スキーの草分け的存在・猪谷六合雄、市民科学者・高木仁三郎などです。

アーツ前橋は博物館ではないので、その方たちの活動を紹介するのではなく、現在活躍するアーティストたちが、その方たちの活動や成果から発想を得たり、共通性を見出したりした作品を紹介します。

中島：具体的なエピソードを紹介してください。

辻：カナイサワコさんは角田金五郎のノートを見て、菌の形状からイメージを膨らませて新しい作品をつくりました。猪谷六合雄さんの手仕事に着目した八木隆行さんのモバイルハウスという大掛かりなものもあります。

開館記念展全体としては、平面作品や立体作品、映像作品など、バリエーションは様々です。

中島：今回はどんな収蔵作品が見られるのですか。

＊開館記念展『カゼイロノハナ』のチラシ

辻：全体のテーマは「カゼイロノハナ　未来への対話」ですが、それは、６つのテーマで構成されています。歴史との対話、自然との対話、言葉との対話、表現の実験、戦争と震災、グローバル　ローカル／パブリック　プライベートの６つです。

その中の「歴史との対話」では、現在の作家が収蔵作品から構想を得た作品を紹介したり、「自然との対話」では私たちが見慣れた前橋の風景を描いた作品を紹介することで、普段意識しない自然を感じてもらえたりするようにしています。そのなかで収蔵品を紹介します。具体体には、中村節也、南城一夫、髙橋常雄などの作品を見ることができます。

中島：贅沢な展覧会ですね。見どころを紹介してください。

辻：収蔵作品を見てもらうというのはもちろんですが、新作をつくるアーティストたちそれぞれが、歴史や自然・人物等と対話したなかで制作した作品を紹介しているので、どのような対話がされたのか想像をめぐらしていただいたり、見る人自身も展示作品との対話を楽しんだりしてもらえばと思っています。

中島：他にも楽しむポイントがあれば教えてください。

辻：県の生涯学習センターに池田政治さんが小学生とワークショップでつくった壁画があるのですが、この壁画を原画にした大きな絵本があります。また、カナイサワコさんの作品は菌類をテーマとしているので会期中も少しずつ増殖していきます。どこに増えたのかを探すことを楽しんでもらえ

ます。

その他アーティストトークやカフェで聞くレクチャー、シンポジウムなどがあります。

参加者：アーティストトークの情報がまだホームページで発表されていないので、スケジュールを教えてください。忙しいのは解りますが情報発信を早くしてほしいです。

辻：ご指摘ありがとうございます。本日中にホームページで公開します。

○ひろがる楽しみ

中島：開館展の期間に合わせて街なかで展開している地域アートプロジェクト（以下：地域ＡＰ）について、住友館長に具体的な内容を紹介してもらいます。

住友：地域ＡＰとは、館外の何カ所かで展開する事業です。いくつかはすでに始まっていて、いくつかは二年後三年後に継続していくものです。展覧会とは時間軸が違うのでプロジェクトという言い方をしています。

街の人と触れ合っていると街のいろいろな話を聞きます。また、アーティストと街に出ると、こういう場所でこういうことができたらいいなという話が生まれてきます。このような話が蓄積していく中で、クリエイティブな人が街の中に入っていくと面白い化学反応が起きるのではないかという思いで生まれてきたものです。

- **きぬプロジェクト**
  生糸の歴史や文化を探り、新たな関係性を創り出します。
- **ダイニングプロジェクト**
  家庭料理や農業のリサーチを通して、前橋を見つめ直します。
- **ハーブマンプロジェクト**
  街のなかに創造的なガーデンを市民と共に創ります。
- **マチリアル**
  現在の中心市街地の現状＝「マチのリアル」に向き合い、中心市街地で暮らす人々との横の繋がりをつくり、様々な世代の人が集う場をつくりだします。
- **アーツ桑町：**アーティスト・藤浩志とアートスクール受講生の発案で、空き店舗を改修して昨年度完成したスペースです。街のなかで活動する市民団体が登録し、活動拠点として使用しています。
- **磯部湯活用プロジェクト：**２名のアーティストが前橋に滞在し、昨年閉店した銭湯「磯部湯」を使って公開制作、作品展示を行ないます。

その他に、開館展に参加している作家に、アーツ前橋の周辺にある９つの商店街ごとに異なったフラッグをデザインしてもらいました。こちらも楽しんでください。

中島：街なかで展開することの面白さや醍醐味は？

住友：実は、面白さと辛さは同じで、こちらの思う通りにはまずならないということです（笑）。街なかでは、ギャラリーに展示する場合と違って

プラン通りにはならないことの方が多いです。街の人がかかわることによって前に進むことも立ち止まることもあります。また、期が熟すまで待つことが必要なこともあります。それが面白いところなんです。

近年、日本でも地域ＡＰが盛んになってきていて、我々もいろいろな助成金を使わせてもらっています。単年度で成果を出さなくてもよい仕組みが増えているので、事業を徐々につなげていくプロジェクトを構想できるようになり運営がしやすくなっています。今後の日本のアートシーンの中でも活発になっていくのではないかと思っています。

中島：作家が街の人と交流するなかで、どういったことが起こるのですか？

住友：作家が“勝手に”と言ったら語弊がありますが、勝手に動いてもらうことが実は重要だと思っています。クリエイティブな能力を持っている人は、街の人と交流するなかで、何が自分にとって大切かを汲み取り、作品に結び付ける能力も高い人が多いです。街のなかで一生活者として過ごす中で、何かが蓄積して、クリエイティブな感性が働き、作品として表れてくると思います。でも、どのように働くのかは僕らにもまだわからない。そこが面白いところだと思います。

中島：一般の人が地域ＡＰに関わる方法を教えてください。

住友：作家にもよりますが、磯部湯の幸田千依さんは曜日を決めて公開制作をするので、作品の進捗状況を見ることができます。そこで話しかけると色々と話をしてくれると思います。きぬプロジェクトの西尾美也さんは作品の素材（古着）を募集しているので、持ってきてもらったりすることで関わりが生まれていきます。三か月間の会期中に作家と触れ合う人次第でプロジェクトの形が変わっていく可能性もあります。

アーツ桑町は「開催日時不定期」となっています。自主運営であることに重要な意味があるので、活動するなかでお互いが何をやっているか共有していくだろうし、どんな活動になっていくか、見守ることも重要だと考えています。

中島：アーツ桑町を使いたい人は申し出ればいいのですか。

住友：〇〇部という団体名をつけてもらうことや商店街の人を顧問にすること等、幾つかのルールがあります。興味のある方は、是非、訊ねてください。

〇カフェの楽しみ

アーツ前橋でカフェを運営するロブソンコーヒーから山本氏を迎えて、その魅力や意気込みなどを話していただきました。

中島：お店の名前「ロブソンコーヒー」の由来を教えてください。

ロブソンコーヒー・山本氏（以下、山本）**：**二十代前半にバンクーバーに滞在していたのですが、こんな街が前橋にもあればいいなと思い、街のメインストリートの名前から取りました。

中島：アーツ前橋でのコンセプトや方向性は？

山本：群馬には空港がないのですが、空港の風景をつくりだすことをイメージしています。カフェがアーツ前橋と街なかをつなぐ玄関口、トランジット（乗り換え）の役割を果たせればいいと思い「人と旅先をつなぐ」というコンセプトを提案しています。

中島：コーヒーへのこだわりやメニュー構成など教えてください。

山本：スペシャルティコーヒーをメインに販売します。スペシャルティコーヒーとは、国名だけではなく、地域や生産者などが分かって、国際的な審査員が点数を付けたものです。生豆を買って、自家焙煎することで低価格で提供できるように努めています。そのコーヒーを最もおいしく飲めるように様々な工夫をしています。

　コーヒー以外にもハーブティーとジュース、夜はアルコールも提供します。フードメニューは、地場産野菜などをつかったパンやサンドウィッチを中心に、デザートはコーヒーに合う焼き菓子を提供します。

中島：カゼイロノハナの展覧会に合わせたメニューはありますか？

山本：スイーツで提供できればと考えています。また、カフェスペースでのイベントも定期、不定期で考えています。

ROBSON COFFEE ARTS MAEBASHI（ロブソンコーヒー　アーツ前橋）

街中とアーツ前橋をつなぐ「トランジットカフェ」

営業時間：月曜、火曜、木曜、日曜：10 時 30 分～ 20 時 30 分
　　金曜、土曜：10 時 30 分～ 22 時

休業日：水曜日、年末年始

お問い合わせ：027-233-3005

＊ロブソンコーヒーさんから参加者にコーヒーが提供されました。

◯ショップの楽しみ

アーツ前橋でショップを運営するアートショップＡＯから廣田氏を迎えてその魅力や意気込みなどを話していただきました。

中島：ショップの名前や由来を教えてください。

アートショップＡＯ・廣田氏（以下、廣田）：ＡＯは「Art & Omnibus」の略で、アートと他にもたくさんの作品があるなかで様々なものを一緒にしてひとつのものをつくり上げるという意味があります。実はもうひとつ意味があって、ＡＯを運営しているのは青幻舎という出版社なのですが、その「青＝ＡＯ」を掛けています。

中島：ショップのコンセプトを教えてください。

廣田：「五感で楽しめるアートショップ」です。隣のコーヒーショップから香りがしてきたり、出版物を触って感じていただいたり、今回の展覧会のテーマのように風が吹いて騒ぐ音がしたり、そういうところから美術を感じていただけるようにしています。全体で 1000 アイテムあるうち、書籍が６～７割、残りをグッズが占めています。

書籍と言うと固い印象を持たれる方もいるのですが、アートの入り口になるような柔らかい商品もそろえています。

中島：展覧会「カゼイロノハナ」に合わせての工夫や前橋に所縁のある商品などはありますか。

廣田：店内に風を感じられる演出をします。展示でも参照されている萩原恭次郎の誌を活版印刷したものなど、アーツ前橋での興奮を手軽に持って帰っていただけるよう商品を用意しています。他にも、組み立てることができて着色することができる「だるま」や前橋の消防局で使用していた消防ホースをデザイナーがプランターに生まれ変わらせたグッズがなどあります。

今後は、前橋や県内と所縁のある商品も扱っていきたいと考えていますし、アートに興味がない人にも足が運んでいただけるように演出していきたいと考えています。

アートショップ　ＡＯアーツ前橋店　http://www.seigensha.com/

コンセプトは「五感で楽しむアートショップ」。第一線で活躍する人気のアーティスト・デザイナーグッズや生活に彩りを添えるアートのほか、群馬県発信のデザイン性の高い商品などを豊富に取り揃えています。

営業時間：11 時～ 19 時

休 業 日：水曜日、年末年始

お問い合わせ：027-233-1122

＊会場にショップで販売する アイテムが展示されました。

○結びにかえて／はじまる

住友：開館記念展の内容を一足先に皆さんに紹介できる機会を得て、たいへん嬉しく思っています。

アーツ前橋の立ち上げにかかわる三年間で、何故、美術は必要なのだろうかと考えざるをえませんでした。新しい施設ができていくときに、そして、長いあいだ色んな地域で美術館が出来て、歴史的にも継承されて、税金をつかってまで必要だとされてきた理由は何だろうかと考える貴重な機会でした。そして思うことは、美術をとおして、自分以外の人の感じ方や考え方に触れることができることです。経済や政治では争いがあるため利益や目的を供にする人と一緒に居ることになりますが、芸術や文化ではよりオープンであることに大きな意味があると思います。アーツ前橋ができることによってそういう場が前橋のなかに増えていく、増やしていきたいと思っています。

開館後も引き続きよろしくお願いします。

住友館長

喜多村議長

喜多村：前橋文化推進会議はアーツ前橋開館までの期間限定の組織です。まだ検討を重ねなければならないことも残っており、この一週間でできる限りの検討をしていこうとしています。ホームページで公開している情報をアーカイブとしてアーツ前橋か市のホームページで保管してもらえるように話も進めています。

本日は、開館まで一週間に迫ったアーツ前橋にどういうことが起こっていくのか、どういうかかわり方、楽しみ方ができるのかという点に焦点を絞ってお話をしていただきました。アーツなカフェも６回になりましたが、これまでに見解の違う人たちが膝を付き合わせて話をしたり聞いたりしたことがなかったことを鑑みれば、そのような機会を持てたこと自体に意味あると思います。これを断ち切ることなく、参加して頂いた方々が、前橋の芸術文化やアーツ前橋にかかわる話を継続していただければ、我々の行ってきたことの意義になると思っております。

前橋文化推進会議はこれで終了になります。それは同時に、アーツ前橋が開館し、前橋に新しい芸術文化が芽生えていくきっかけになっていくことを意味します。

本日はご参加いただき、本当にありがとうございました。

■ 第６回（最終回）アーツなカフェ：アンケート結果

前橋文化推進会議
2013.10.19

アーツなカフェに関するアンケート

前橋文化推進会議では、開館へ向け『アーツ前橋』の魅力を市民に発信するために、前橋文化推進会議の検討内容やプレイベント等の周知及び開館後の広報活動を行っています。今後のアーツ前橋の活動の参考にするため、以下のアンケートにご協力ください。

① なにを見て、アーツなカフェを知りましたか？
該当する項目をチェックしてください。（複数回答可）
□ちらし　□ポスター　□ facebook　□ twitter　□文化推進会議ＨＰ
□前橋市ＨＰ　□広報まえばし　□新聞（　　新聞　）
□関係者から誘われた　□友人知人
□その他（　　）

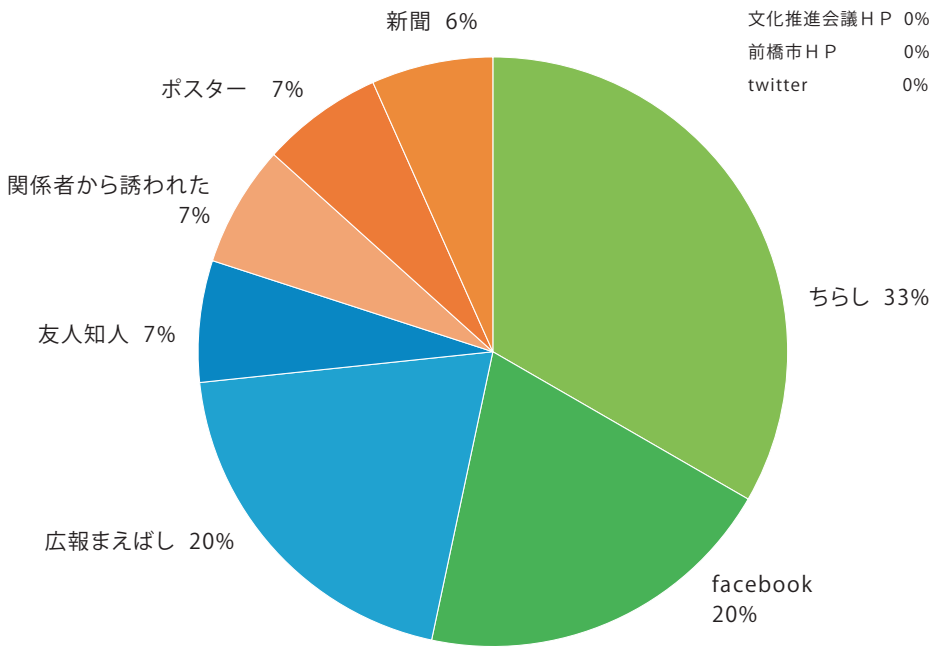
② アーツなカフェに参加した回数を教えてください。該当する回数にチェックしてください。
□初めて参加する　□２回目　□３回目
□４回目　□５回目　□６回目

③ 本日のカフェのご感想、ご意見、ご質問等がありましたらご記入ください。（足りない方は裏面へ）

ご協力ありがとうございました。
（＊ホームページ等への転載　可　・　不可　）

＊当日配布した第６回アーツなカフェ　アンケート：配布 30 ／回収 11

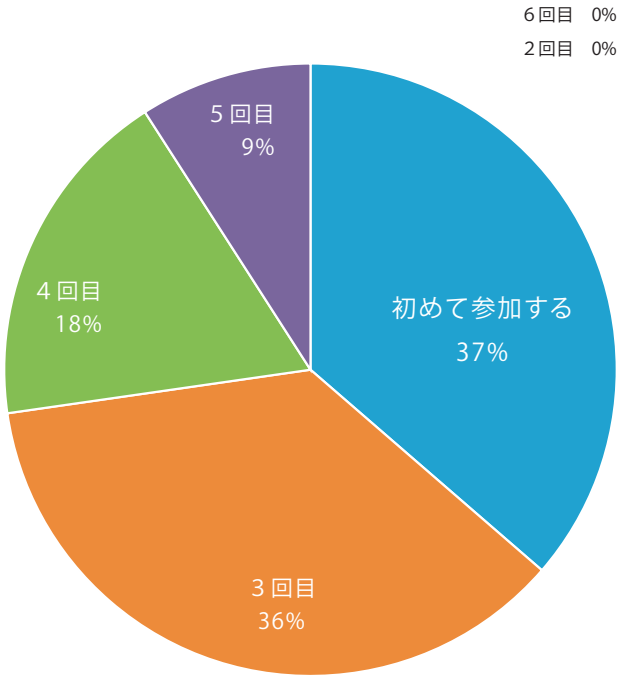
① なにを見て、アーツなカフェを知りましたか？（複数回答あり）



これまで、アーツなカフェに参加する方は SNS から情報を得ていることが多かったが、最終回では紙媒体から情報を得て参加した方が 66%と増加し、SNS と逆転した。

紙媒体から情報を得た方が多く参加したことから、アーツなカフェ開催当初から課題であった広報物による周知活動に一定の成果が得られたと捉えることができると思われる。

② アーツなカフェに参加した回数を教えてください。



初めてアーツなカフェに参加する方が 37%、全６回開催したアーツなカフェの半分の参加にあたる３回の方が 36%、次いで４回、５回という集計結果になった。全てのカフェに参加した方は居なかったが複数回参加者が 63%あることから、リピート率が高いことが窺える。また、毎回、初めて参加する方が一定数いることから、アーツ前橋および前橋文化推進会議のことが徐々に周知されたと考えることができる。

③ 本日の感想、ご意見、ご質問等

- 文推のみなさま、本当に本当におつかれ様でした。
- ただ収蔵作品をみるだけではなく未来への対話として新しい作品が生まれることで、かつての作品にまた新しい見方、価値が加わるのはステキだなと思います。楽しみです。
- なおのこと、オープニング展もりだくさんの内容、広報がいきわたるといいなと思います。
- 街なかに人が集まってくるようになることを期待してます。
- また地元に経済効果があらわれ元気になってもらいたいと思います。
- 立ち上げは色々と大変だと思いますが、頑張って下さい。
- 住友さんのお話やこれからの動きも少しわかって、参加してこれからのアーツがもっと楽しくなりました。
- 美術館のあり方、これからの未来がすばらしいと思った。art は最高です！！
- 今後の文推は？どーなるの？残す必要あると思いますが…
- 街なかにある美術館なので入館料 800 円は高い！毎日の買い物に来る人、通りかかった人が 30 分～１時間位の時間つぶしに立ち寄れる場所でもあるので、ぜひ無料化へ。
- 企画展時期のみ 300 円程度にして下さい。でないと近所の人のアート展示であっても毎回みにいく気にならないです。音楽も 500 円未満
- アーツカフェなのにアーツ的な工夫がないのは理解できない。
- ショップも地域性のあるものをもっと。

多くの方にご参加いただきありがとうございました。